

# 普通期水稻（元気つくし・ヒノヒカリ）管理情報 NO.1

## 1. 生育概況

6月の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は並みとなりました。  
7月4日の生育調査の結果、6月上中旬植えのほ場では茎数が十分に確保され、6月下旬植えのほ場では活着し、順調に生育していました。また、目立った病害虫の発生はありませんでしたが、一部でスクミリングガイ（ジャンボタニシ）の食害を受けているほ場が散見されました。

## 2. 水管理

### （1）間断かん水

田植え後は、間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）または、一時落水し適度にガス抜きを行い、根を健康に保ちましょう。特に麦わらをすき込んだほ場では、田植え後20日頃を目安に軽く田干しを実施しましょう。

### （2）中干し

中干しは、1株当たりの茎数が18～20本程度確保できたら開始してください（田植え後30日頃から目安）。  
※目標茎数に達していても中干しが開始されていないほ場が多く見受けられます。今年は梅雨明けが早く、晴天・高温が続いており、茎数の増加が早い傾向です。各ほ場の茎数に応じて中干しを開始するようにしましょう。

#### ① 中干しの時期

田植え	中干し開始の目安	中干し期間
6月7日	7月7日頃	土壌表面の乾き具合を見ながら7日程度 ※下記③の基準を目安とする
6月14日	7月14日頃	
6月21日	7月21日頃	



（目標茎数のほ場の様子）



（適切な中干し程度）

#### ② 効果

- 土壌のガス抜きと酸素の供給によって根の活力を維持
- 窒素吸収を抑え、無効分げつを抑制
- 倒伏の軽減、地固めによるコンバイン作業性の向上

#### ③ ポイント

- 土壌が黒乾し田面に浅い亀裂が入り、足跡が軽く残る程度を基準とする（土壌が白色になるまで干さない）
- 生育過剰のほ場や排水不良のほ場ではやや強めに、生育が不足気味や水持ちの悪い田では軽めに実施
- 中干し後は一度に深水にせず、走り水程度から始めて徐々に湛水

## 3. 病害虫補正防除

いもち病が発生した場合は、発生初期に補正防除を行いましょう。また、補植用苗は病害虫の発生原因になるため早めに処分しましょう。

病名	薬剤	薬量（10a 当り）	使用時期
いもち病	ダブルカットフロアブル	水 140ℓ に 140mℓ（1,000 倍）	穂揃期まで
	コラトップジャンボP	10～13 パック（500～650 g）	葉いもち：初発 20 日前～初発時 穂いもち：出穂 30 日前～5 日前まで
	オリブライト 250G	250g	出穂 10 日前まで （ただし、収穫 45 日前まで）
	ノンプラス粉剤 DL	3kg	収穫 7 日前まで

## 4. 雑草補正防除

雑草が多い場合は、下記の除草剤を散布してください。雑草の生育が進むと除草剤の効果が落ちるので、登録の範囲内で早めに散布するようにしましょう。

対象雑草	除草剤名	薬量（10a 当り）	使用時期	使用上の注意
イネ科 広葉 加ツグサ科	クリンチャーバス ME 液剤	水 100ℓ に 1,000mℓ	移植後 15 日～ノビエ 5 葉期まで 但し、収穫 50 日前まで	落水状態で散布する。 高温時散布は避ける。 展着剤は加用しない。
	ワイドショット 1 キロ粒剤	1kg	移植後 15 日～ノビエ 4 葉期まで 但し、収穫 45 日前まで	湛水状態で散布する。

※イネ科雑草のみ場合は、「クリンチャーEW」もしくは、「トドメMF 乳剤」を使用してください。

### 農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布作業は涼しい時間帯に行いましょう
- ④散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ⑤防除履歴を記帳しましょう